

『ザ・本とインターネット』  
ソーシャル読書セミナー  
5月

2011年5月26日

@ドコモスマートフォンラウンジ

データセクション株式会社 橋本大也

# 講師プロフィール

## 橋本大也

- データセクション(株) 取締役会長
  - ブログやツイッターのクチコミ分析会社です
  -
- (株)早稲田情報技術研究所 取締役
- (株)メタキャスト 取締役
- (株)日本技芸 取締役
- デジタルハリウッド大学 教授
  - 授業「リサーチ&プランニング」
- 多摩大学 大学院 経営情報学科 客員教授

# ブログについて

## 情報考学

### Passion For The Future

- <http://www.ringolab.com/note/daiya/>
- 2003年9月に開始
- 書評、ソフトウェア評、IT業界論など2600本。
- 書評は1600冊超
- NHK「クローズアップ現代」新聞、雑誌、ラジオで紹介されアクセス増える



## 情報考学

橋本大也

Passion For The Future

WEB時代の羅針盤

213

冊

<http://www.access.or.jp>

アクセス向上委員会  
橋本大也

アクセスを  
増やす  
ホームページ  
革命術

MYC@M



二西本詩撮影

# 読んで書いてより深く

## プロガー・橋本大也さんに聞く

大学在学中の90年代半ばにITビジネスを始め、日本のインターネット業界の草創期から活躍している橋本さん。コンサルティング会社「デー・タセクション」会長として多忙な毎日を送る一方、03年9月からプロガー「情報者」でも書くのも大好き。「本なら

はしもと・たいや 1970年生まれ。プロガー・デー・タセクション会長。早稲田大在学中にインターネットの可能性に目覚め、IT系ベンチャー企業を創業。主な著書に「情報力」「情報者」W E B 10時代の権威213冊など。デジタルハリウッド大准教授、多摩大大学院客員教授も務めている。

モーツァルトや、ベートーベンの音楽とも全く無縁、おおよそ文化的というには程遠い子ども時代を送ってきました。建築の道を進もうと考えたのは10代の終わりのころで、まずはどのようなことを勉強すべきかと、関西近郊の大学をのぞきに行ったのですが、講義内容が全然わからない。文化的知識量が全く足りてい

ない。彼らは本当に豊かな子ども時代を送ったのだなとつくづく羨ましく思いました。私といえば、母が文化的知識を吸収していた幼少期に、魚を釣ったりトンボをとったり、ソフトボールをしたり紙



など、生きていく上で最も大切なことを学ぶことはできましたが、いわゆる文化的素養を育む機会はありませんでした。中学2年のころ、生まれ育った長屋の2階を増築した時に、一心不乱に働く大工さんを見て、建築という職業に強い興味を覚えました。こま

ろに見た大工さんの姿が忘れられず、独学でも建築の道を進もうと決心し、周りの人たちに少しでも追いつこうと、そこから必死で本を読み始めます。将来に何の保証もなく、不安で一杯のスタートでした。しかしそんな私の決意を固めるきっかけとなったのが、このこ

いくらでも買ってもらえたので、書店によく通った。プロガーを始めてさらに読書熱が高まり、年間約500冊を手に入れ、約300冊を読破。200冊程度を評している。通勤に片道約1時間20分かかると、電車内と帰宅前とで1日ほぼ1冊読めるという。多忙な中、書評の執筆時間

を確保するのは大変なもので、「全く始め書かないと損をした気分になると話す。『読書の楽しみの一つは自分の内面が整理されていく感じがすること。ただ言葉にしないまま終わると、感じていられないと理解できないところ、終わる気がするんです』

だと気付かされまし、だから、子どもが書くことは大切だと感じる。『当時は『やらざる』感じで、何を書ぶのか分かりませんでした。なら、他人にその本を読んでもらえるように、この本の何がいいのかを明らかにする前提で読むと、橋本さんが本の魅

たきっかけは、小学のころに出会った『エンデラー』と『モモ』の両方の本と違っ、向ける本とは違っ、内容に夢中になっ、自身も読書歴をたも、人生に影響を及ぼす。『そんな

たきっかけは、小学のころに出会った『エンデラー』と『モモ』の両方の本と違っ、向ける本とは違っ、内容に夢中になっ、自身も読書歴をたも、人生に影響を及ぼす。『そんな

個人がブログなどに載せた書評を、多くの人が本を選ぶ参考に使っている。本の売れ行きに影響を与えることもあるという「ネット書評家」。出版社も注目する彼らの実力を探ってみた。

### 本の売れ行き左右する人も

# ネット書評家の実力

主なネット書評	
ブログ・メルマガ名	ジャンル
404 Blog Not Found ( <a href="http://blog.livedoor.jp/dankogai/">http://blog.livedoor.jp/dankogai/</a> )	人文、科学、社会など
俺と100冊の成功本 ( <a href="http://blog.zikokeihatu.com/">http://blog.zikokeihatu.com/</a> )	自己啓発書
浅沼ヒロシの書評ブログ 晴読雨読日記 ( <a href="http://d.hatena.ne.jp/pyon3/200708">http://d.hatena.ne.jp/pyon3/200708</a> )	社会、経済、文芸など
ビジネス・ブック・マラソン (メルマガ)	ビジネス

だ。メルマガに書くのはビジネス書や自己啓発書の書評が中心。三十、四十代のビジネスマンら一万三千人強の読者がついていて、「人に薦めたい本だけを取り上げ、内容の批判はしない」のがポリシー。「オススメ度」を星の数で表し、どういった人が読むとためになるかを示すなど、徹底して読者の視点に立つて本を紹介する。

る。「レビューの実している本は声が高い」(同社)消費者行動論 康介・首都大学「ネット時代に」の力が増幅し、社会に対して「持ちうる」と指の評論家ではない文章なので

これまでに紹介した本は経済書から文芸書、科学の本まで八百冊超。1丁ペンチヤーを経営する橋本大也氏(36)が自身のブログ「情報考字」(<http://www.ringolab.com/note/daiya/>)に書評を書き始めたのは二〇〇三年九月のこと。徐々に読者が増え、一日当たりの閲覧件数は現在約一万。書いた文章が他のブログなどで引用されることも多く、ネット社会

で強い影響力を持つ書評家として知られる。新刊から古典まで最低でも一日一冊は読破

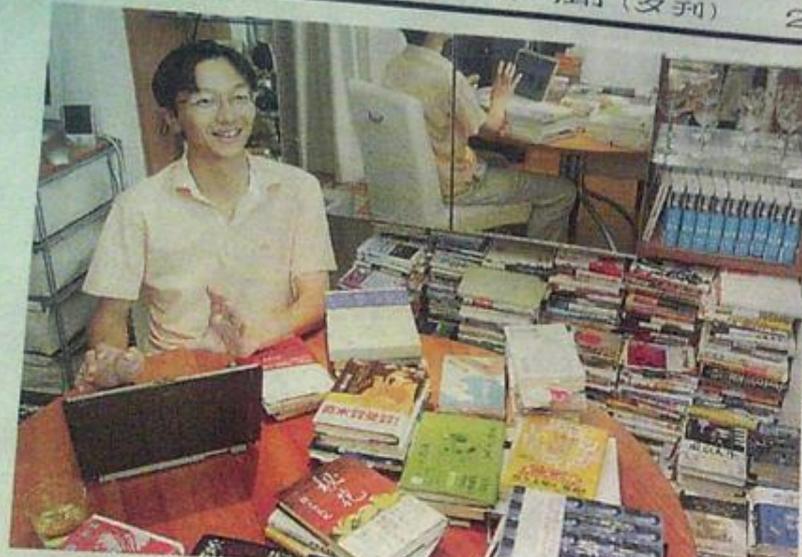
し、ブログは毎日更新する。書評を読んだ人がネット書店で本を購入すると手数料が入る契約をしており、年間の収入は約百二十万円にもものぼる。「自分の書評がきっかけで本が売れるのがとても面白い」と橋本氏は話す。

る書評家は読者の信頼もあつく、取り上げられると購買に結びつきやすいと語る。出版社もその影響力を販促に生かせると考えているのだ。

### 口コミの力増幅

実際、ネット書評家がキャンペーンのかたちで特定の本を紹介した結果、ヒットにつながった例も出ている。五月刊行の浜口隆則著「戦わない経営」(かんき出版)は、見本本を読んだ複数のネット書評家が発刊前に内容を紹介しますとネット書店に予約が集中的に入り、発売後二週間で増刷、三万部を売り上げた。

ネット書店最大のアマゾンでは、本を読んだ人が感想などを書き込む「カスタマーレビュー」欄がある。閲覧者による投票でレビュー(評者)はランク付けされており、優良なレビューによる書き込みは本の売れ行きも左右す



起業家の橋本大也氏は帰宅後や週末に書評を執筆している

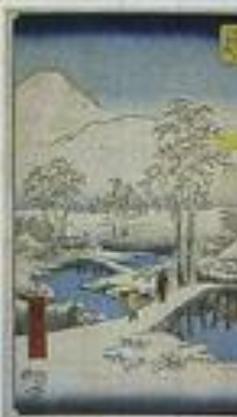
竹内薫著「開く物理学者!」(日本実業出版社)など新刊書があるかと思えば、九鬼周造著「いき」の構造(岩波文庫)といった古典も取り上げる。本の概要と読みどころを丁寧に紹介。「自分の読書記録であるとともに、ブログの読者を意識した内容になっている」のが特徴だ。

会社役員の松山真之助氏(53)のもとには、複数の出版社から週五、六冊の本が送られてくる。もちろん無償。松山氏の書評メールマガジン(メルマガ)「Webbook of the Day」に

取り上げてもらうための献本

# 夕刊文化

林家木久蔵さん 息子に名前譲り、木久扇に



セルヴィス・ランペール  
「早稲田 池津屋橋山本」  
©photo: P. Schmidt

CULTURE

アート

## 時代を開くブロガー ② 橋本大也さん

(データセクション代表取締役) 37

「時代を開く」は、たゞ内容が面白くても、その時々に関心がある本を、一気読みする姿勢を、その表現する、1冊1冊の0冊以上は本を読む、驚異的な読書量に支えられ、書評やソフトウェア評を掲載するブログ「情報考学」は、今年目に突入している。

「本々として適切な本を、テーマに導くという最初の設計がよかった」。日記形式が多いブログの中、タイトル通り考えることには変わった点が秀出している。

小学生の時からパソコンに

どことか強かり、当時すでにブログラミングを習得していた。今では「ペンチャーター」の経営者、そんなデジタル人間だけに、本を読むのはもはやネット書店かと思いきや、大型書店でじっくりと本

を讀むのが好きだという。「ネットではいくら検索しても数冊という情報は得られない。リアルな書店では、何となく情報にアクセスできる」とアナログ的な行動や、大層書店でゆっくりと本

を讀むに基づいている。読者はどこまで読もう。本を讀み始めて、面白くないと思ったらすぐに切り上げるのが、新しい本が読めると発想する。経験にも即座に表れてい

だ。どこでも、考えながら本を讀むように、インターネットに書き留める。デジタルツールの活用は当然。ポッドキャストに録音したり、自分で自分にメールを打ったり。それらを参照して、短時間で、積極的にブログを更新するのを習慣化している。



## 年200冊「即読」 驚異の書評



て入学した早稲田大学で8年間フルタイムで働いた。高校中退は、学校では好奇心が刺激される。卒業しなくても大層な本があるから、大学に預けたいものは「やはり始めたインターネットへのアクセス環境が整っていたから」。周りに左右されず、自分の「理」に身を委ねる。

初めてブログで書評した本は父の思い出せない。「橋本すれば分かるけれど……」。橋本手ながら、「橋」を検索してみた。2003年の9月10日「はいかたして」を覚えている。P.110(新装版)。「やはり橋の本だった」。

フロント4

# ITツールと上手につきあう

で、「IT使用のルールを学ぶ場がまだまだ少ない」との声も強まる。新学期を迎え、学生のIT生活の光と影を。

ネット送信することが義務づけられている。教授は次の講義でそれらを披露するなど、講義の質を高めていくのが狙いだ。他大学にも似た試みはあるものの、全講義でというのは全国でもここだけだろうである。

## 膨大な情報 SNSで差別化



デジタルハリウッド大学の橋本大也氏

「新たなPTA」の輪も  
会員制交流サイト(SNS)に

敗は許されない。学生のうちに正しい方やルールに慣れておくのも重要だ」と語る。

の糸口が見つかることなどもあ

る、という。  
ここで教授が重視するのは「ソーシャルフィルター」という機能だ。「膨大な量のネット情報の何を読むべきか。『これ、おもしろい』という友人の指摘で、情報がふるいにかけられる。それを『フィルター』と呼ぶ。多様な分野に有力な情報源があれば強い。コミュニケーションの方でも、現代のそれは流暢にしゃべれることではなく、自分を差別化する情報の収

IT機器の学生生活への浸透度について橋本教授は「ワード、エクセルなどのソフトを一通り使うことに加えて、今後は、ブログやツイッターのレベルになるのではないか。社会に出ると、それらによってトラブルになるような失

によって、教授と学生とのつきあいも一変する。毎日リアルタイムで情報交換する場が家族、友人にまで広がる。思いがけない出会いがあり、「新たなPTA」ともいえる共同空間が生まれる。その関係は卒業後まで続き、ときには就活

集力です」と語る。  
ネット上の「影」に注意  
では、ITの「影」の部分はどうだろうか。全国大学生協連合会が三菱総研と出版した「大学生がタマされる50の危険」は「学生が

- 学生が心配なネット被害  
〈クリック詐欺〉  
誤って有料サイトにアクセス、会員登録や費用(支払い)を強制される
- 〈出会い系詐欺〉  
登録者多数のように見せかけ、全部が「サクラ」の悪質ケースも
- 〈フィッシング〉  
偽のホームページで銀行やカード会社を装い、個人情報を聞き出す
- 〈ブログ炎上〉  
不用意な発言で、処理できないほど炎論・反論が殺到して窮地に
- 〈個人情報漏洩〉  
ファイル共有ソフトで思わぬ被害も。ID・パスワードの管理を
- 〈不正コピー〉  
すべてのファイルには著作権がある。論文のデータ盗用も同じ
- 〈プライバシー侵害〉  
ブログに写真をのせるときは慎重に。他人の誹謗(ひぼう)や中傷は避ける

7:30

# リポート Today's Close Up 現代



影響力を増す  
超人気ブログ



“カリスマ”登場!  
超人気ブログ



アルファブローガー

橋本 大也さん(36)

# 『情報力』

2009年1月9日発売  
翔泳社 980円

「膨大な情報や頭のもやもやをスッキリさせる」

これまでになかった「情報」を「知恵」にする技術

アタマとデジタルツールをフル活用して“ハイパー個人”



# 最近の本

BOOK BUSINESS

ブックビジネス2.0

WEB時代の新しい本の生態系

iPadやKindleだけが「本の未来」ではない。

この先にある「本」のかたち

をめぐる俊英たちからの提案集

岡本 真・津田 大介・橋本 大也・長尾 真  
仲俣 暁生 | 編集 野口 祐子・渡辺 智暁・金正 勲 | 著  
実業之日本社

## デジタル/ネットワーク化するメディア 電子書籍と出版

### 2010年代の「出版」を考える

高橋 明行 (TAKAHASHI Akiyuki)  
経営戦略研究開発部長 / 独立プロダクション編集者

仲俣 暁生 (NAKAIKEI Akiyuki)  
フリー編集者・文筆家 / 「マロリン」誌 編集人

橋本 大也 (HASHIMOTO Daigo)  
データソリューション推進委員会 / ブログ「情報戦争」著者

渡辺 均 (WATANABE Hitoshi)  
ネット出版代表取締役 / 編集プロダクション編集者

### 電子出版時代の編集者

山田 達也 (YAMADA Tatsuya)  
フリーライター・編集者

### 20年後の出版をどう定義するか

横井 八郎 (YOKOI Hachiro)  
専任編集者 / 専任編集者 / 専任編集者

### 出版業界の現状をどう見るか

星野 彦 (HOSHINO Hitoshi)  
文化編集 / 編集者

### 編集者とデザイナーのためのXML勉強会

藤岡 英次 (FUJIOKA Eiji)  
メディアシステム・デザイナー / デザインデザイナー



祥伝社

# 本日の内容

第1部 5月のオススメ書籍(過去7年分)

第2部 今月のテーマ本  
私的ビジネス書大賞2011

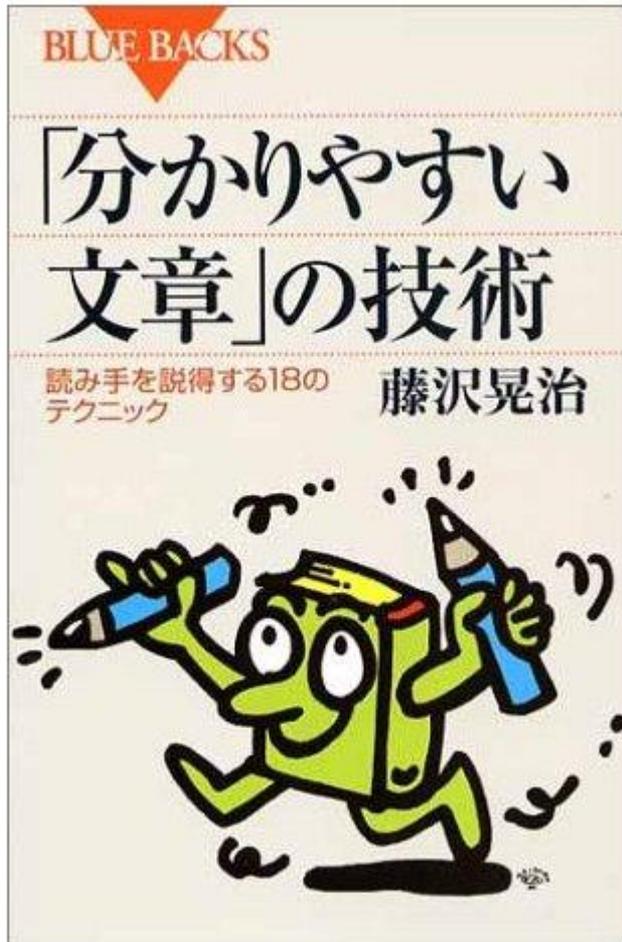
第3部 デジタル読書向上委員会  
テーマ 書評ブログを2800日続けるコツ

# 第1部 5月のおすすめ書籍

- 2004年から2011年までの5月に読んだ書籍を振り返りながら、ブックナビします。

2004年5月

# 「分かりやすい文章」の技術



## わかりやすい文章4つのポイント

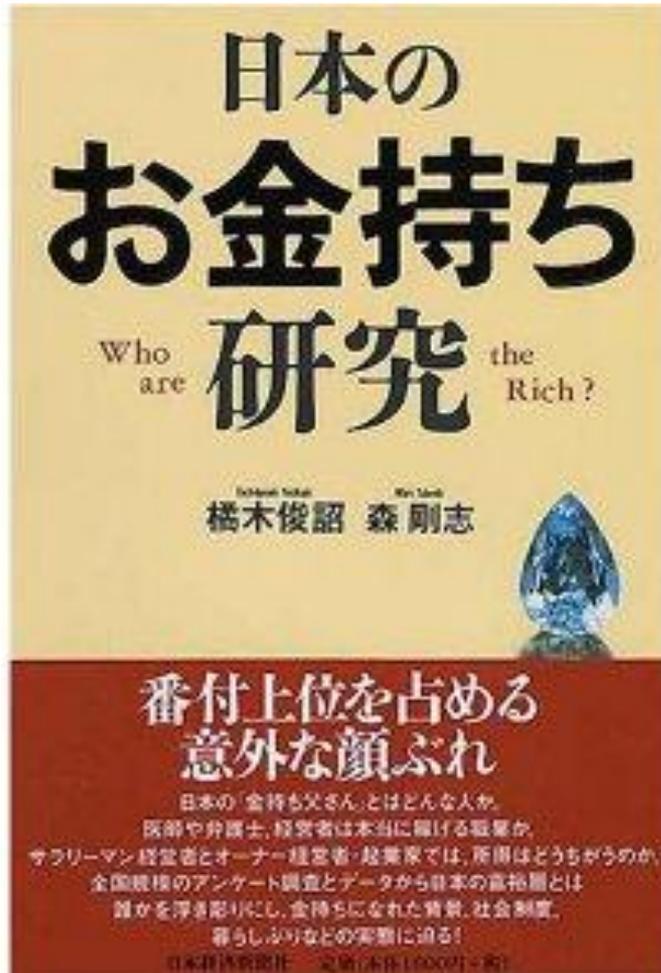
- 1 センテンスを短くする(40字で、「が」の分割など)
- 2 事前分解しておく(読点で意味を確定させる、など)
- 3 曖昧さをなくす(修飾語は近くに、など)
- 4 キーワードを作る(文章に取っ手をつける、とっかかりやすさ、など)

実務文には「斜め読み耐性」をもたせるべき。

飛ばし読みされても、書き手の意図が伝わるように書け。最初に予告をすることが大切。パズルのピースを見せる前に、それをはめ込むパズルのボードをみせてやるのが、意図の理解につながる。

2005年5月

# データで読む家族問題



## 高額所得者における職業別の比率

企業家(最高経営責任者)	33.3%
トップではない経営幹部	11.6%
医師	15.4%
芸能人・スポーツ選手	2.2%
弁護士	0.4%
その他	38.7%

企業家と医師で上位45%を占めている。この国のお金持ちとは社長さんとお医者さんなのだ。

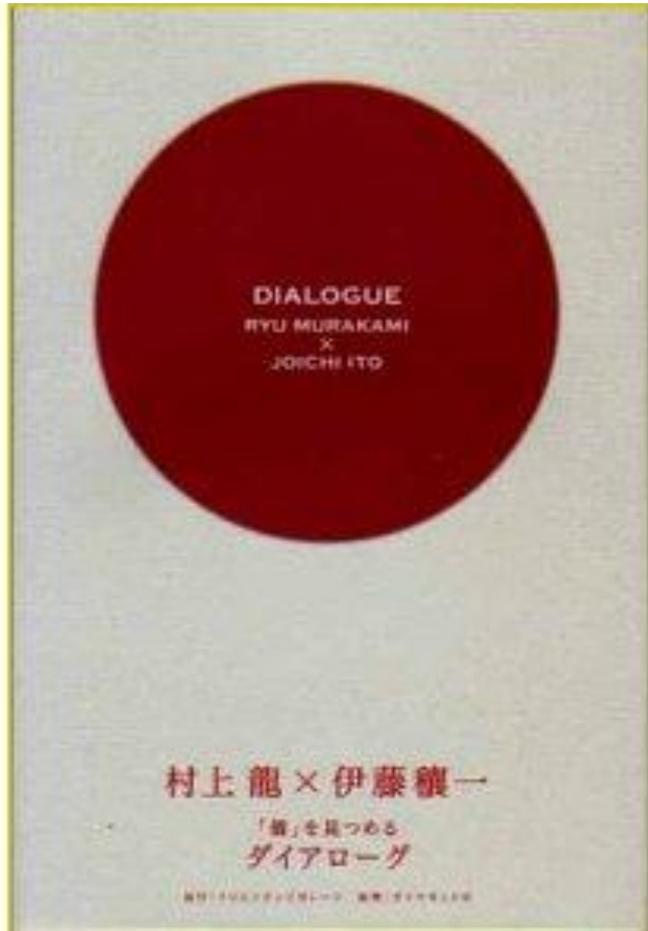
2006年5月

# 「個」を見つめるダイアローグ

作家・村上龍とITの伝道師・伊藤穰一の対談本。

「リスペクト」って日本語では、「尊敬する」と訳されているけれど、原語のニュアンスはちょっと違うんだよね。互いのいいところを探すという感じでもないし、ピタッとあてはまる日本語がない。アメリカ人って、このリスペクトを、どんなに意見や立場が違う人にも、ある程度はもっているんじゃないかと思う。でも、日本人にはこのリスペクトがないんだよ。」

でも、もしリスペクトがあれば、何か事件が起きたり、関係が悪化しても、そのリスペクトをテコに、どこからか話を始めることができるはずなんだよ。



# 忘れられた日本人

## 忘れられた日本人

宮本常一著



昭和14年  
以来、日  
本全国を  
くまなく  
歩き、各  
地の民間

伝承を克明に調査した著者(1907-81)が、  
文化を築き支えてきた伝承者＝老人達がど  
のような環境に生きてきたかを、古老たち  
自身の語るライフヒストリーをまじえて生  
き生きと描く。辺境の地で黙々と生きる日  
本人の存在を歴史の舞台にうかがあがせ  
た宮本民俗学の代表作。(解説＝網野善彦)



青 164-1  
岩波文庫

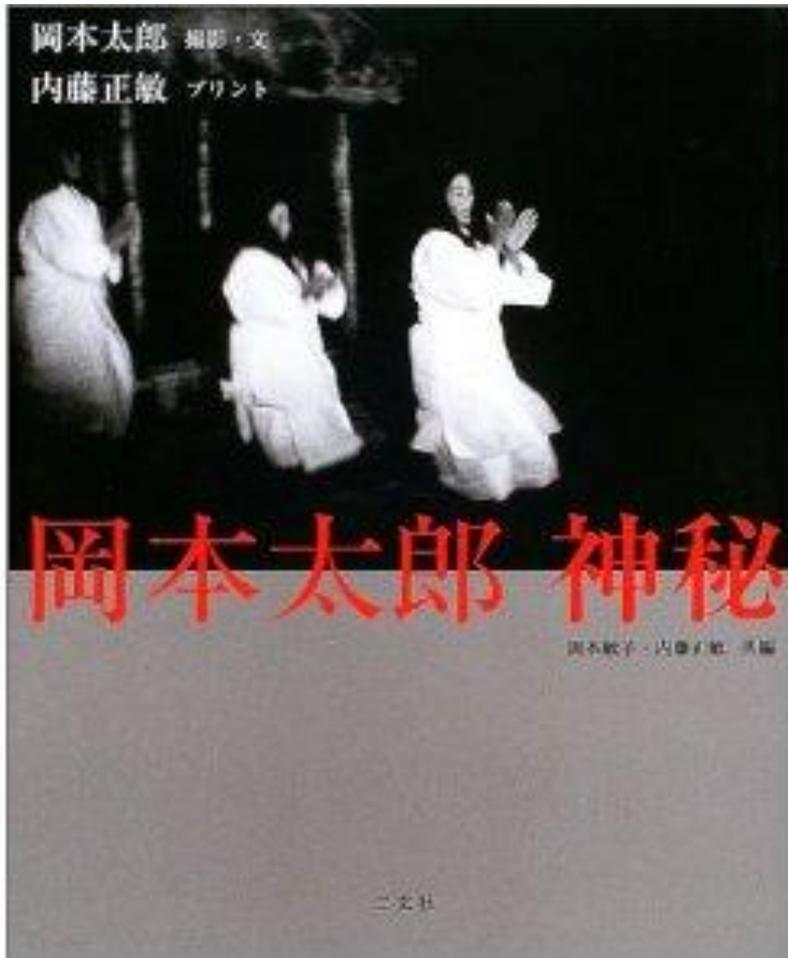
西日本を中心に農村の古老たちから聞き取った生活誌。初版は1960年だが岩波文庫52刷を数える民俗学の古典。かぐや姫や桃太郎に出てくる”爺さま”と”婆さま”が、物語の筋を離れて、訥々と自分の人生とムラについて語ったような内容である。”爺さま”と”婆さま”にも、彼らが主人公として生きた長くて深い物語があったのである。

貧しい生活の中で必死に働き続けた人が多いが、自堕落に乞食生活を送った老人もいる。村の社会の向上に身を捧げ人望を集めた人生もあるし、ひたすらに異性を追いかけた色男もいる。意外にも自由奔放に生きていた女性の姿が目立つ。

まず古い農村社会は因習に縛られた封建的ムラ社会というイメージが間違いであることにきづかされる

2007年5月

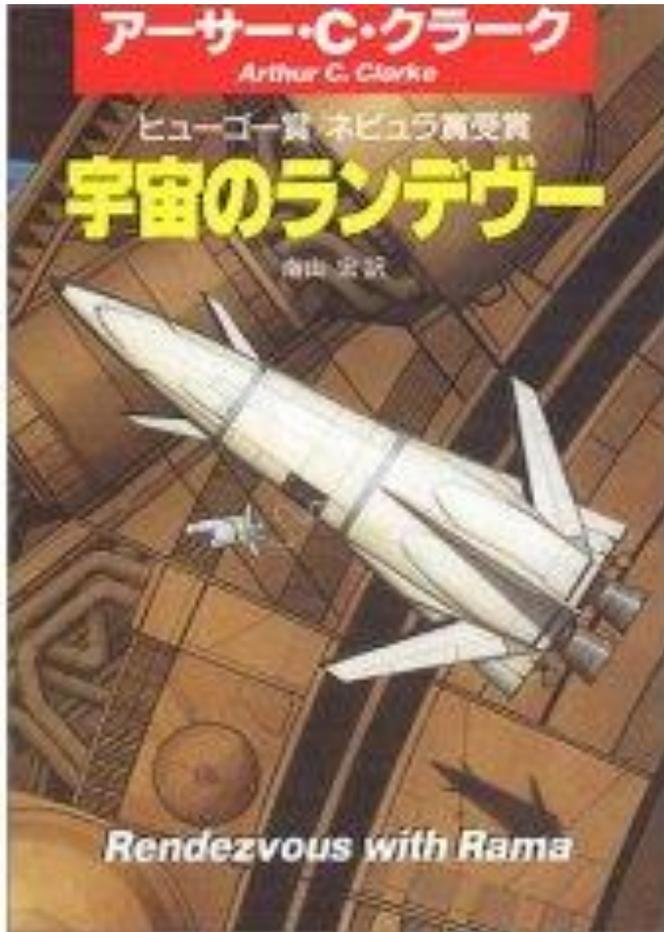
# 岡本太郎 神秘



「芸術は爆発だ」の岡本太郎と、「婆バクハツ」の写真家 内藤正敏の爆発系の二人のコラボレーション写真集。岡本太郎が遺した2万枚の写真ネガを内藤が現像して、岡本の文をキャプションとして配置した。

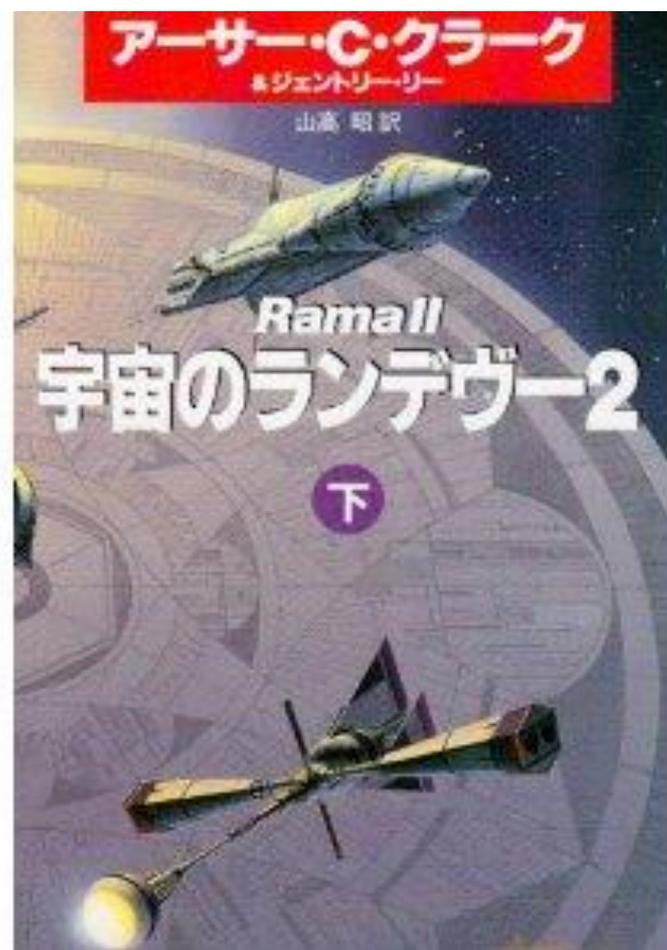
60年代に岡本は民俗学に強い関心を持ち、数年間、東北、関西、沖縄で撮影を重ねていたらしい。プロの写真家ではないからこそ、意図的演出ではなく偶有性の奇跡がしばしば顕れる。自らシャーマンとなることで神秘の写真を撮ることができた。

# 宇宙のランデヴー



2130年、太陽系に直径40キロの円筒状の人工物が接近する。近くを航行する軍の宇宙船にその正体を調べる指令がくだされる。この人工物体は宇宙を100万年間もの長旅をした末に、太陽系を通過するのである。古代の神の名をとってそれはラーマと名づけられた。ラーマから人類には何のメッセージも送られてはこない。

ノートン中佐ら探査メンバーはラーマにドッキングして、未知の内部空間へと侵入していく。ラーマの軌道が太陽系を離脱するまでに残された時間はわずかである。ラーマとはいったい何なのか？、知的生命との遭遇はあるのか？、ラーマの太陽系接近の目的は？。



アーサー・C・クラーク

& ジェントリー・リー

山崎 昭次

# 宇宙のランデヴー3

上



未知なるものへの畏怖と憧憬

壮大なスケールで描くシリーズ第3弾

ハヤカワ文庫SF最新刊

アーサー・C・クラーク

& ジェントリー・リー

山崎 昭次

# 宇宙のランデヴー3

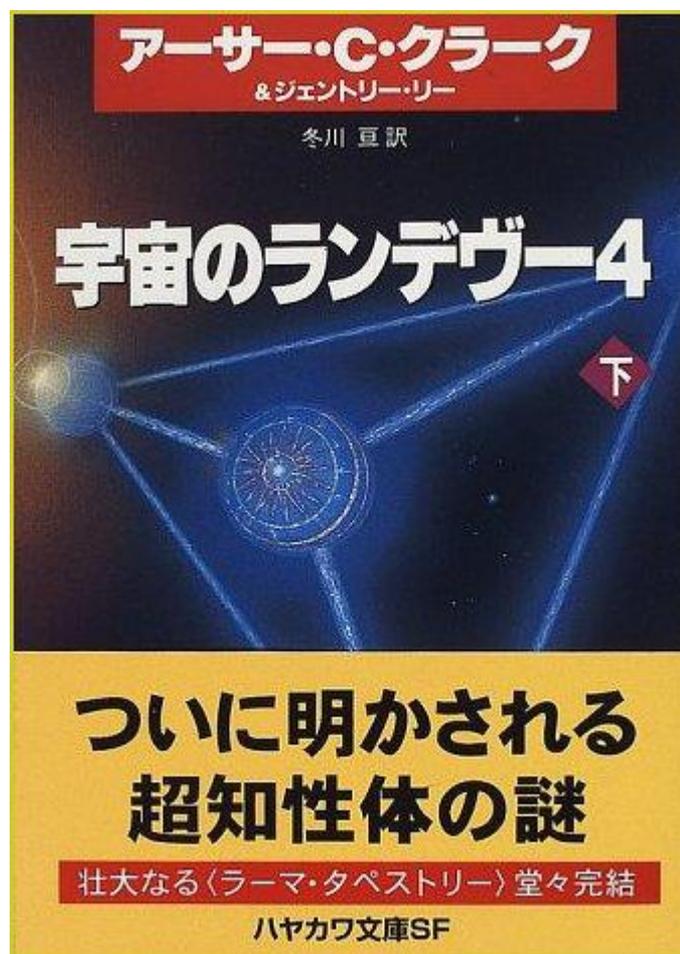
下



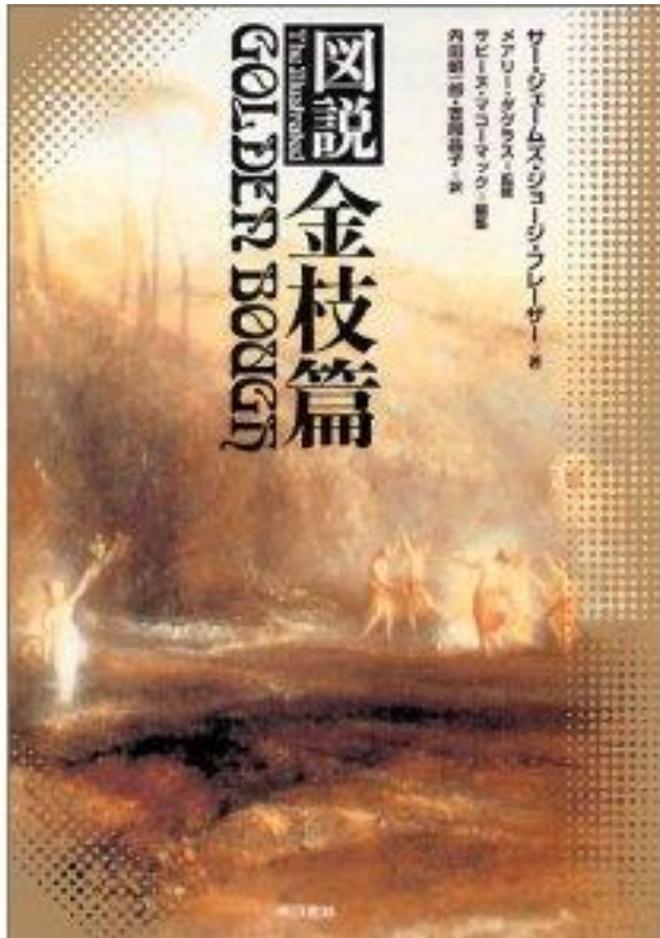
巨匠が描く、新たなる“創世記”

ラーマ内にコロニーを築いた人類の未来は!?

ハヤカワ文庫SF最新刊



# 図説 金枝篇



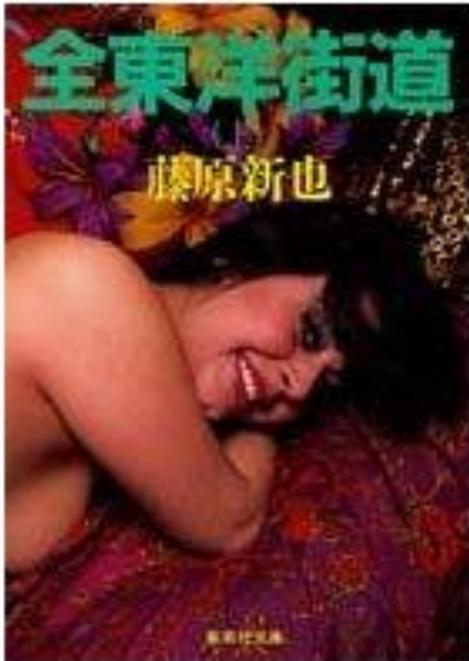
少し値が張る本だが、長大な民族学の古典「金枝篇」を見事に要約し、原典にはなかった写真やイラストで本文の理解を深める工夫が素晴らしい。

呪術には、「似たものは似たものを生み出す、結果はその原因に似る」という類似の法則と、「かつて互いに接触していたものは、その後、物理的な接触がなくなっても距離をおきながらひきつづき互いに作用しあう」という感染の法則の二つの原理がある。類似の法則からは類感呪術が、感染の法則からは感染呪術が発生する。

類感呪術とはたとえば敵に似せた像を傷つけることで、その敵本人を呪い殺すような術である。感染呪術とは相手の身に着けていたものや髪などを使って本人に影響を与えようとする術のことである。

結局のところ、科学という総合概念、つまり、ふつうの言葉でいえば、自然の法則だが、それは、人間のものの考え方が生み出したくるくる変わる幻影を説明するためにひねり出された仮説にすぎないことを忘れてはならない。われわれはその幻影を世界とか宇宙といった大仰な呼び方で権威づけているだけなのだ。とどのつまり、呪術も宗教も科学も人間のものの考え方がつくり出した理論にほかならないのである。科学が呪術や宗教に取って代わったように、科学もまた、いつの日か、もっと完璧な仮説によって取って代わられるかもしれない。

# 全東洋街道 上

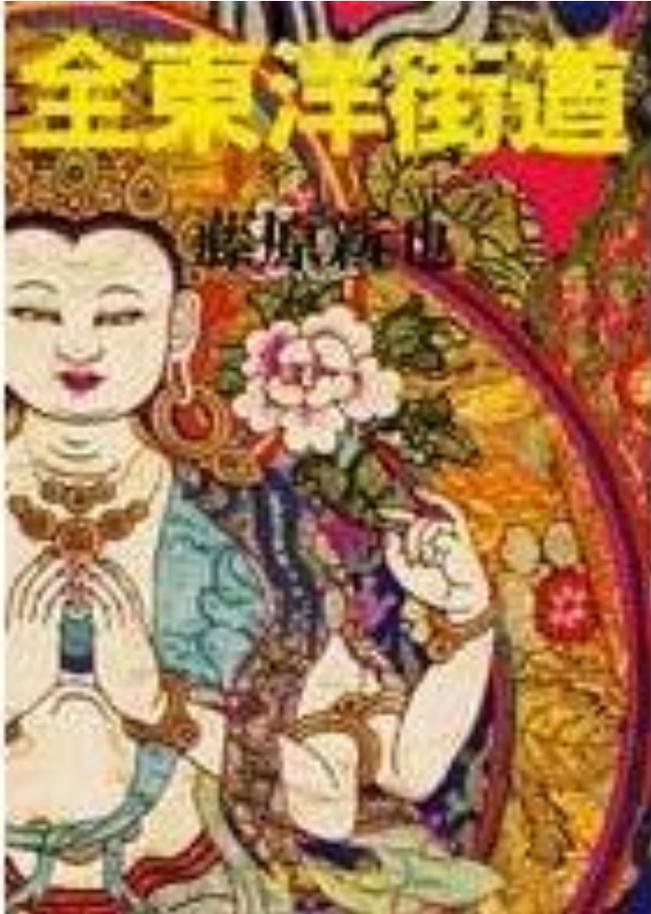


「東洋の魂を求めて放浪400日！チベットでは山寺にこもり、チェンマイでは売春宿に泊まる…。全アジア都市の聖・食・性を写し出す、毎日芸術賞受賞のオールカラー・人間ドキュメント。」

四半世紀前の作品だが、この藤原新也の数ある放浪記の中でもこれは傑作だと思う。アジアの風土がこの人の気質と合っているのだ。外国人でありながら現地の風俗にどっぷり浸かって、観光とは無縁の、魂の遍歴とでもいうべき旅を続けた。

ときには売春宿で娼婦たちと生活を共にし、彼女たちの肢体も写真におさめている。裸の娼婦はカメラにコケティッシュなポーズを取りながら「頭の人ばかりダメネ 人間は肉でしょ 気持ちいっぱいあるでしょ」と笑う。

# 全東洋街道 下

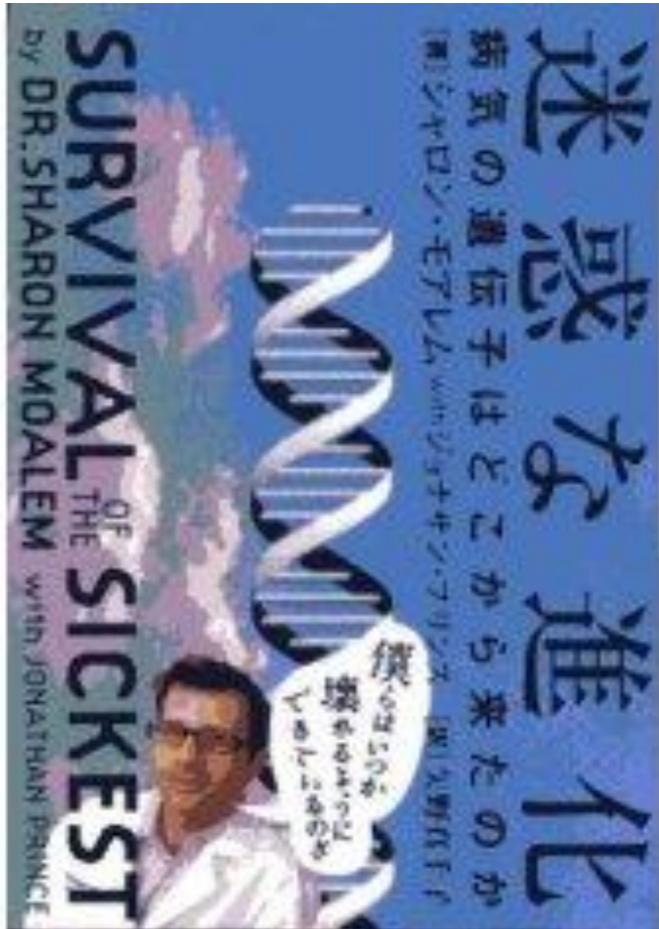


「レンズは九十九パーセント、肉眼に近い広角レンズを使った。街を歩き人に触れるのに望遠レンズを多用するのは卑怯だという私なりの考えがある。つまり写真を撮りながら被写体がその気になり、その時私の頬を殴ろうと思えばいつも殴れ、笑いかけようとするならいつも笑いかけられる位置において、私は写真を撮りたいと思う。」

2008年5月

# 迷惑な進化

## 病気の遺伝子はどこから来たのか



「ある時代での「進化による解決」は別の時代の「進化による問題」となりうる。とりわけ、進化によって体を適応させようとしてきた環境に、もはや住まなくなったという場合には。」

氷河期を生きた人類は寒さに対応するため水分を排除し糖分を蓄積する必要があった。高血糖ならば血が凍りにくいから厳寒期でも生存率が高まった。ところが気候が温暖化し、食料も豊富になると高血糖は生命に危険を及ぼす糖尿病として人類を悩ませることになった。現在の人類の遺伝が原因の疾病の多くが、ある時代を生き延びるための進化的解決の残存だったことが明かされる。

# 科学する麻雀



著者はインターネット麻雀対局「東風荘」の実戦データを大量に収集して解析している。数万件、数十万件ものデータをベースに、戦略・戦術の発生確率や勝率を厳密に計算して、長年雀荘で語られてきた根拠のない俗説を次々に論破していく。

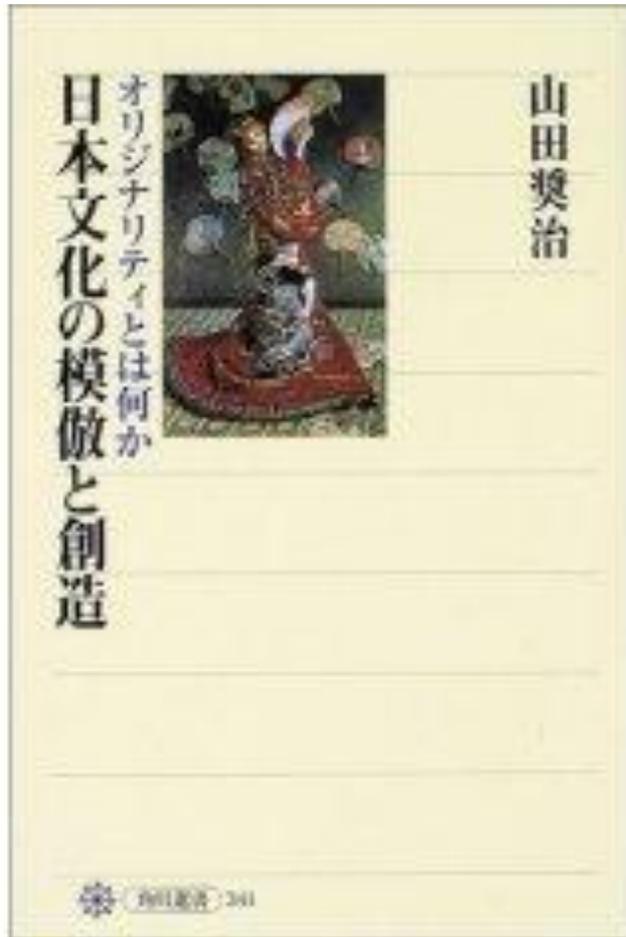
まず確率的には、ほとんどのケースで「先制リーチせよ」「手変わりを待つな」が正解になることが明かされる。よほど高い手が狙える稀な場合を除いて、安くても、どんどんリーチで攻めるべきなのだ。

「統計的には持ち持ちの確率は10%程度である」

「ドラ待ち先制カンチャン・シャンポンリーチは実測によると、40%程度の確率で和了できる。また無スジ456のドラ単騎待ちリーチだと20%程度となる。」

「通常、リーチの半分以上はリーチ後6順程度以内に和了する。安全牌候補と呼ぶべき牌が3枚程度もあれば、まずまず上手に降りきることが可能なのである」

# 日本文化の模倣と創造 オリジナリティとは何か

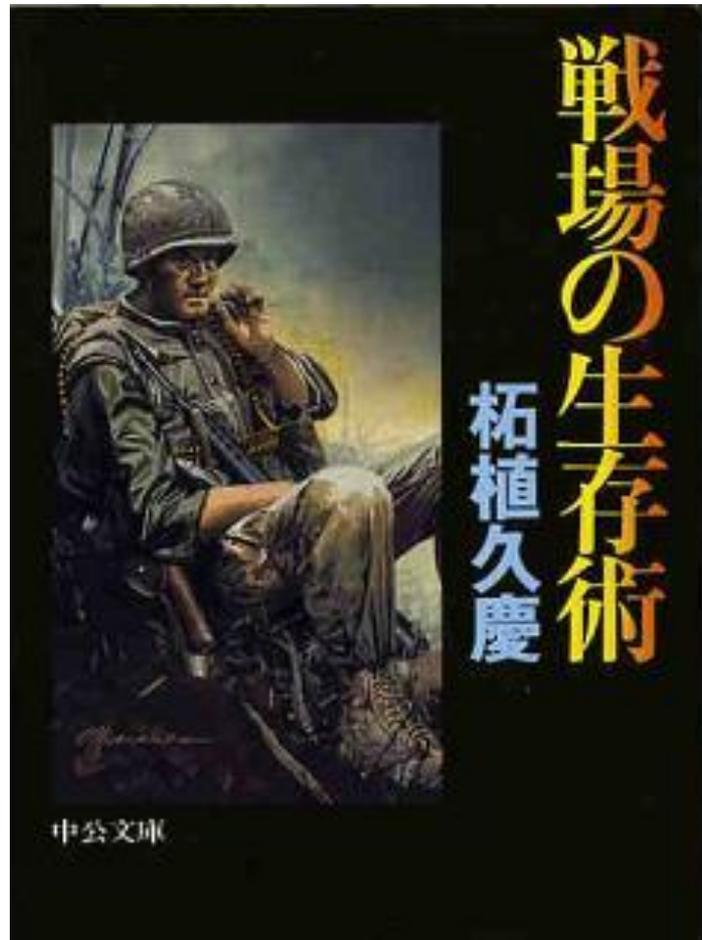


類似したものを選ばせる認知実験の結果が興味深い。異なる観点で似ているものを指摘させた場合、西洋人は形状的な特徴の類似を重視する人が多いのに対して、日本人は色彩・素材・質感・肌ざわりなど非形状的な特徴に着目する人が多い

特に日本の伝統文化には芸道の「守・破・離」や家元制度などは、先人の技芸の模倣から発展していく「再創」の文化であった。浮世絵の特徴を数量化した研究では、それぞれが独創的に思える絵画も、作風や流派によって客観的な類似点があることが判明する。ものまねが美を生み出してきたのだ。

そして大量複製技術の登場によって、模倣は一層重要なキーワードとなる。

# 戦場の生存術



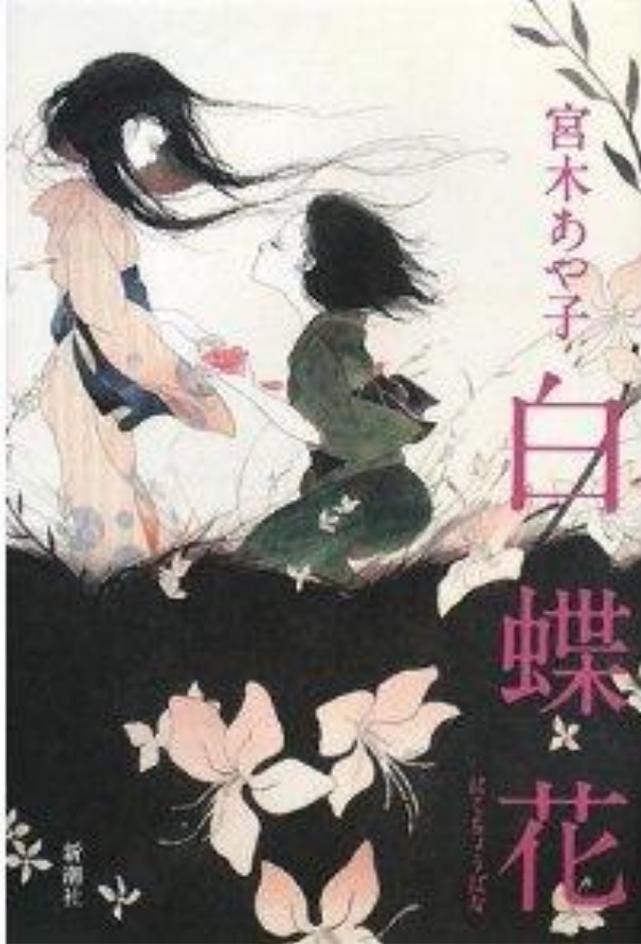
1942年生まれ、1961年慶応大学在学中に傭兵部隊の一員としてコンゴ動乱に参加、その後、フランス外人部隊教官を経て、アメリカ陸軍特殊部隊に加わる、というプロフィールの日本人傭兵が書いた、正真正銘のサバイバル術。そんじょそこらの趣味的サバイバル本とはレベルが違う。

「アメリカ陸軍の方式は、かなり人数がいても正確に出る。すなわち75センチから90センチ程度の間隔の線を、足跡がたくさんあるあたりに引く。それから線にひっかかっているのを含め、すべての足跡を算え、その総数を単純に2で割る。これでやると何と18人くらいまでほとんど確実に割り出すことができるのだ。」

男女の違いはつま先の向きに出るから性別までわかるらしい。満腹時に腹に被弾すると命がないから満腹まで食べるな、現地語は知っていても知らないふりをして一方的に情報を得よ、と戦場で生死を分けるポイントが次々に語られている。

2009年5月

# 白蝶花



大正から昭和の激動の時代に生きた5人の女達の命懸けの恋愛を描いた官能ロマン。デビュー作「花宵道中」でR-18文学賞大賞を受賞した宮木あや子の受賞後第一作。花宵では遊郭という世界にとらわれた哀しい女達の一途な恋愛模様だったが、本作でも、因習や制度に縛られた女達の連続ドラマという点では共通している。

組長の性の玩具にされていた妾が、組員とできたのがばれて折檻される話。女学校に通う娘が親の借金のために資産家に売られていく話。知事の家的女中として奉公に入った田舎娘が知事の娘にねちねちといじめられる話。女達は運命を受け容れて愛さぬ男に身体を差し出すが、心は密かに愛する男に一途に捧げる。心だけは自由に生きようと抗う。

# 冷たい肌



『カタルーニャ文学』というから構えて読んだが、まずホラー小説として一級の面白さ。そして人間の相互理解という普遍的テーマについて深く考えさせる。

解放運動の夢破れた主人公は絶海の孤島での気象観測の仕事に志願する。前任者と交代するべく島に上陸すると、灯台には何かに取り憑かれたような正体不明の男がいた。対話をひたすらに拒む男に主人公は当惑する。そして日が沈んだとき島は、人間ではない異形の何かの襲撃を受ける。死の危険を前にして、二人の生き残りをかけた戦いが始まる。

# 快樂の本棚

## 言葉から自由になるための読書案内



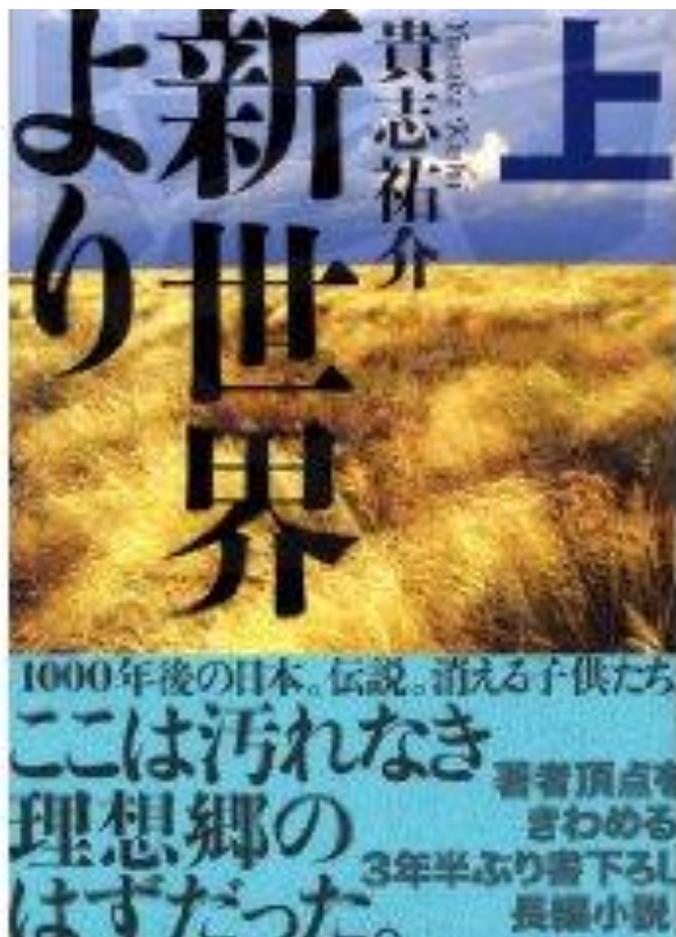
中公新書  
1628

作家 津島佑子の自伝的な読書案内。太宰治の娘であるが故に、母親は娘を文学から遠い場所で生きるように導こうとした。文学は暗くて危険なものだと思い込ませた。結果として娘は本当のことを知りたい欲望から文学の世界へと引き寄せられていく。

性への好奇心が文学の入り口となり源氏物語、好色一代男、発禁処分の『チャタレー夫人の恋人』を英文で読んだ。長大な里見八犬伝を「壮大なでっちあげ」への感動で読破する。読んではいけない本、見てはいけない映画に夢中になる。あらゆるものから自由になるために。

「背徳的」とはつまり、自分の生きている世界をしつこく疑い続けること、おとなたちが隠したがっていることを知りたがることなのだ」

# 新世界より



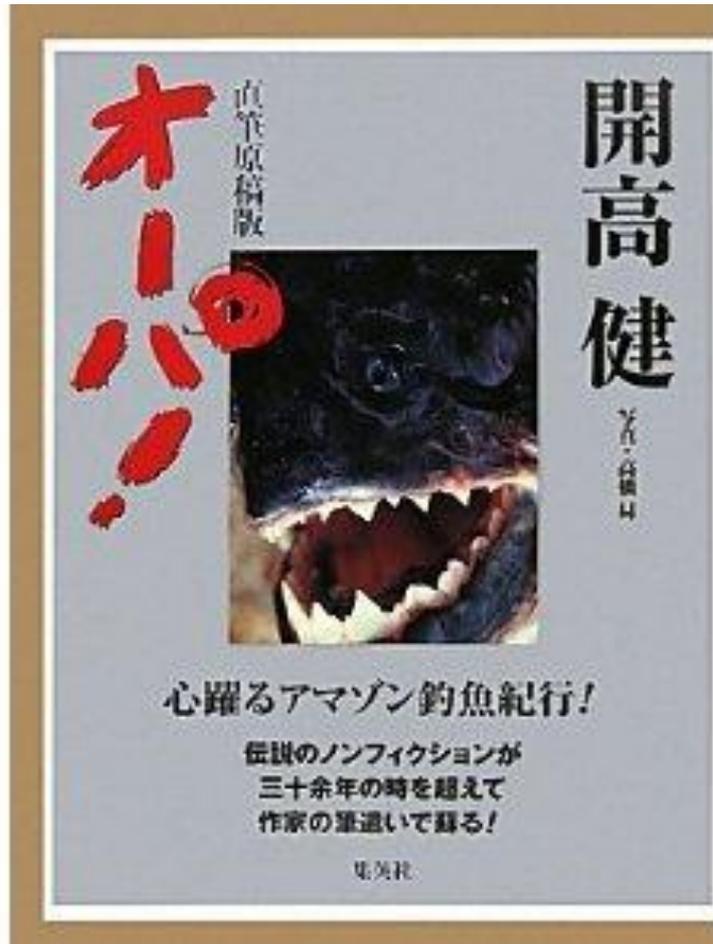
1000年後の日本を描いた未来SF小説。『黒い家』(第4回日本ホラー小説大賞大賞)の貴志祐介。第29回日本SF大賞受賞作品。

未来の人間は科学技術の文明を捨てて、代わりに強大な呪力(超能力)を手に入れていた。彼らは日本の各所に小規模な共同体を作って平和に暮らしている。学校で呪力を習得した大人達は、思念を送ることで物体を自由自在に遠隔操作することができる。達人になれば莫大なエネルギーを炸裂させて、大規模に地形を変えてしまうことさえ可能だった。

呪力を身につけるために学校に通う子供たちが物語の主人公で前半は和製ハリーポッターのようだが...

2010年5月

# 直筆原稿版 オーパ!



すべて直筆原稿で再現された開高健の傑作「オーパ!」である。自筆原稿265枚を原稿用紙のまま(70%)縮小。

電子書籍時代に"紙の価値"で真っ向勝負している。

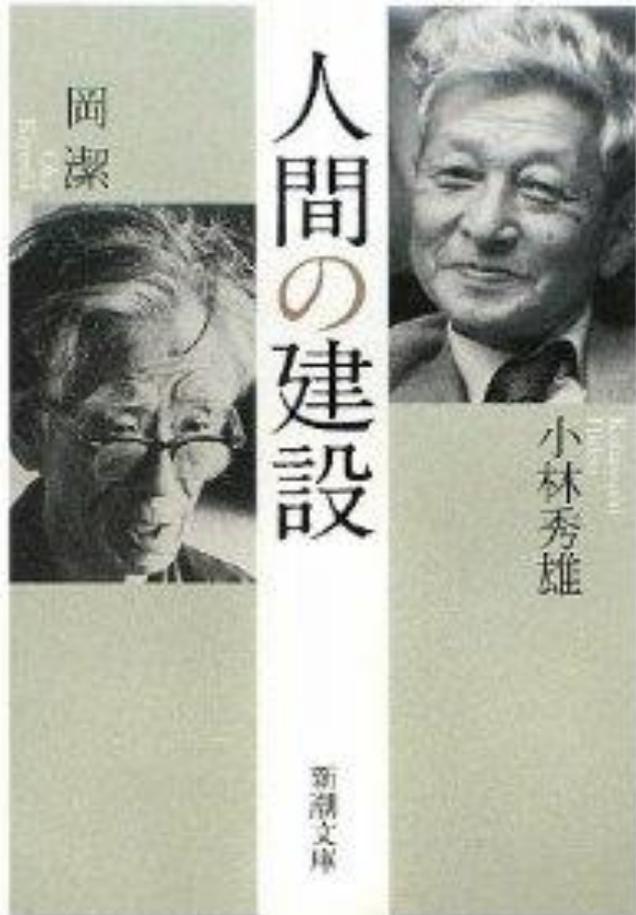
内容はアマゾンで釣り三昧に耽る旅行記。

私も釣りが好きだったので子供の頃に夢中で読んだ本だが、改めて作家の肉筆で読む体験は、本当に楽しかった。

3000円の価値、大いにあり。



# 人間の建設



小林秀雄と日本数学史上最大の数学者といわれる岡潔の対談集。

薄い本だが内容はものすごく濃い。

対話から、どれだけ深くを読み取れるか、読者の力が試される高度に知的な雑談。

「岡 勘というから、どうでもよいと思うのです。勘は知力ですからね。それが働かないと、一切がはじまらぬ。それを表現なさせるために苦労されるのでしょうか。勘でさぐりあてたものを主観のなかで書いていくうちに、内容が流れる。それだけが文章であるはずなんです。」

岡 数学の体系に矛盾がないというためには、まず知的に矛盾がないということを証明し、しかしそれだけでは足りない、銘々の数学者がみなその結果に満足できるという感情的な同意を表示しなければ、数学だとはいえないということがわかったのです。じっさい考えてみれば、矛盾がないというのは感情の満足ですね。」

「小林 実物を知っていて読んだということでおもしろいのが俳句だね。そうすると、芭蕉という人を、もしも知っていたら、どんなにおもしろいかと思うのだ。あの弟子たちはさぞよくわかったでしょうな。いまは芭蕉の俳句だけ残っているのだから、これが名句だとかなんだとかみんな言っていますがね。しかし名句というものは、そのところに芭蕉に付き合った人だけにわかっている何か微妙なものがあるのじゃないかと私は思うのです。」

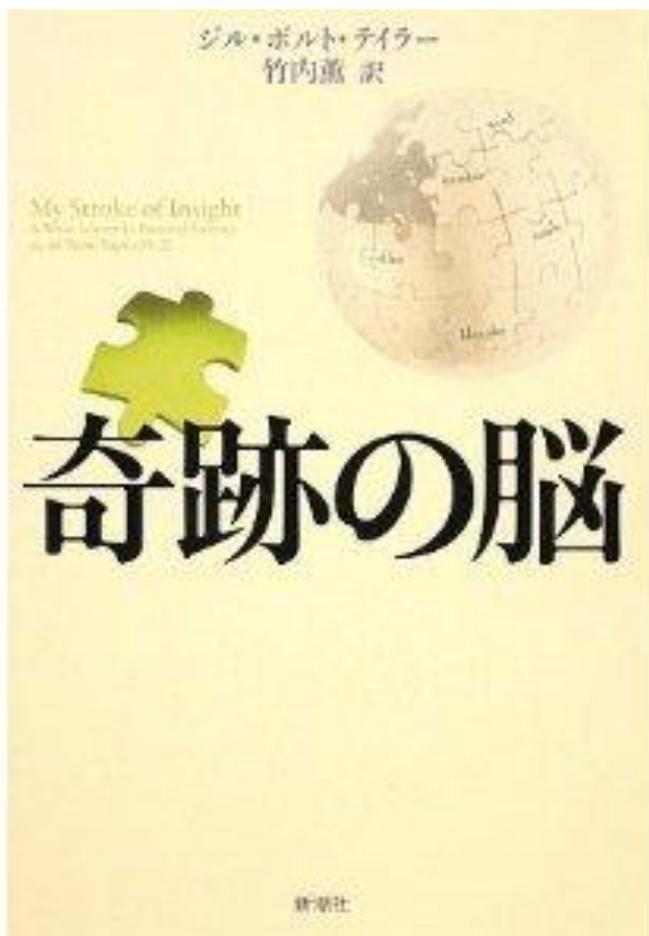
# 千年樹



東地方の山地にある樹齢千年のくすのきの巨樹。

1000年の間に巨樹の下で繰り広げられた人間たちの短い生のドラマを8つの連作短編で語る。時代も立場もまったく異なる登場人物たち数十人がいる。山に逃げた武士、自殺を考える中学生、女をさらった山賊、ドライブ中の家族、愛人と待ち合わせた娼妓…。よくここまで多様な設定下の登場人物たちを描き分けられるものだなあと著者の筆力に感嘆する。

# 奇跡の脳

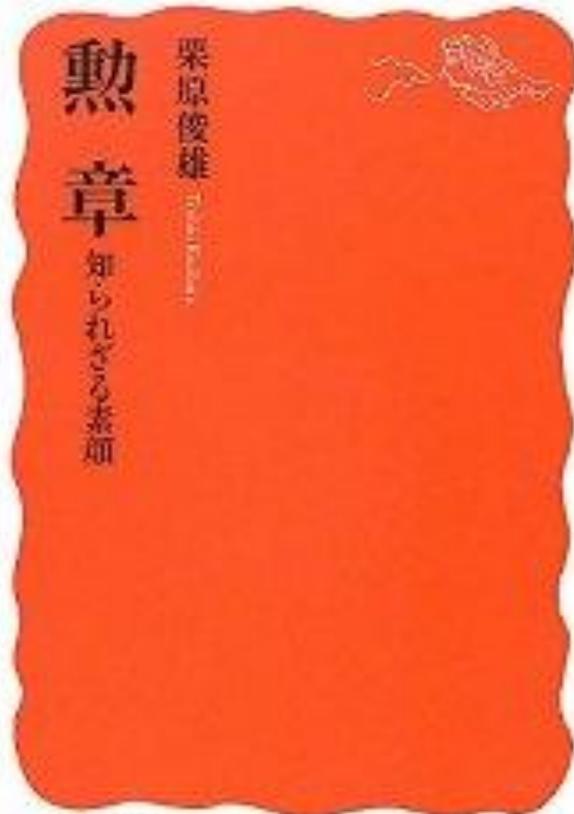


著者は脳が専門の神経解剖学者。37歳の時、脳卒中に襲われて、まともにはなすこと、歩くことさえできなくなるが、大手術と8年のリハビリで奇跡の復活を遂げた。自分の脳が損傷を受け、そして回復していく体験を生々しくドキュメント化した本書は米国でベストセラーとなった。

脳卒中に襲われた朝、著者は朦朧としていく意識の中で、客観的に自分の身に何が起きているのかを把握していた。一人暮らしの彼女は異変に気づいて助けを呼ばなくてはならないことを理解するが、論理的思考の左脳が破壊されていて、具体的にどうしたらいいのかわからなくなる。

2011年5月

# 勲章 知られざる素顔



岩波文庫  
1306

十字軍の戦士が身につけた十字架の記章を起源とし、日本では「薩摩琉球国勲章」を嚆矢とする勲章とその制度は、実はそれを運用する法律がない。明治の勅令や太政官布告によって運営されている。諸事情と経緯を背負った不思議な制度である。

日本では春と秋の叙勲で約4000人ずつ、高齢者叙勲、死亡叙勲、外国人叙勲、気兼業務従事者叙勲、緊急叙勲を含めると受勲者は年間2万人を超える。対象は「国家又は公共に対し功労のある者」。受賞者をみれば典型的な旧体制の価値観が勲章授与のありかたからみえてくる。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%8B%B2%E4%BD%8D%E8%8F%8A%E8%8A%B1%E7%AB%A0%E9%A0%B8%E9%A3%BE>

現在子供の世界はまさにワッペンに明けワッペンに暮れるばかりのありさまです。この流行におくれをとってはならぬとばかりにりっぱなおとなたちが叙勲を急ぐありさまは、童心に返ったほほえましい姿」石橋政嗣衆議院議員（社会党） 1964年

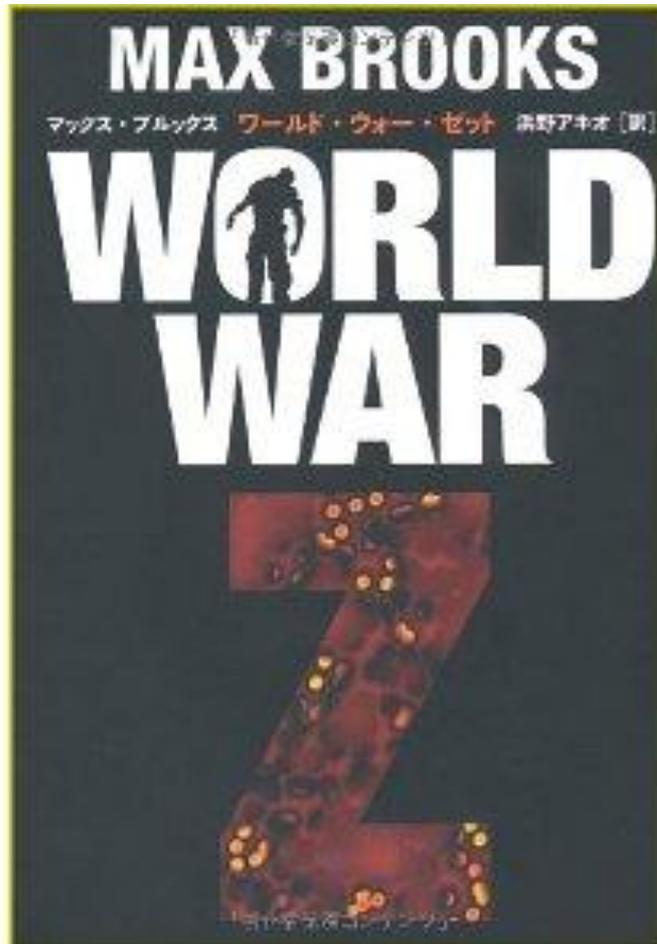
「文化勲章と言うのは、家が貧しくて、研究費も足りない。にもかかわらず、生涯を文化や科学技術発展のために尽くした。そういう者を表彰するのが本来のやり方とは違うのか？」昭和天皇 1971年ごろ

「世論の反対の前に民主的な栄典法をつくることができず、いまなお明治八年の太政官布告に基づいて行われていることや、その叙勲が、かつての天皇の臣下にたいするごとく、政治家や官吏が高い階等を占め、黙々として働く一般の国民には低い回答しか認めないことなどは、天皇の前にひな段の格差をつくることであて、それはひいては復古的な天皇制の空気を生みだすことにつながりやすい」朝日新聞社説 1976年

「それにしても勲章の如きものに人は何故かくも執着するのか。真に世の為、人の為に陰ながら尽くした人々を顕彰するは結構なることなれど、既に功成り、名遂げたる高位、高官の物欲しげなる態、誠に見苦しきものなり。これを見れば、大体その人の器量は解るものなり。」 細川護熙 元首相 1993年

「政治家や官僚に比べ歌手や俳優、落語家など芸術分野で活躍した人に十分報いていない。美空ひばりや石原裕次郎が勲一等にならないような制度はおかしい」 亀井静香 自民党政調会長 1999年

# WORLD WAR Z

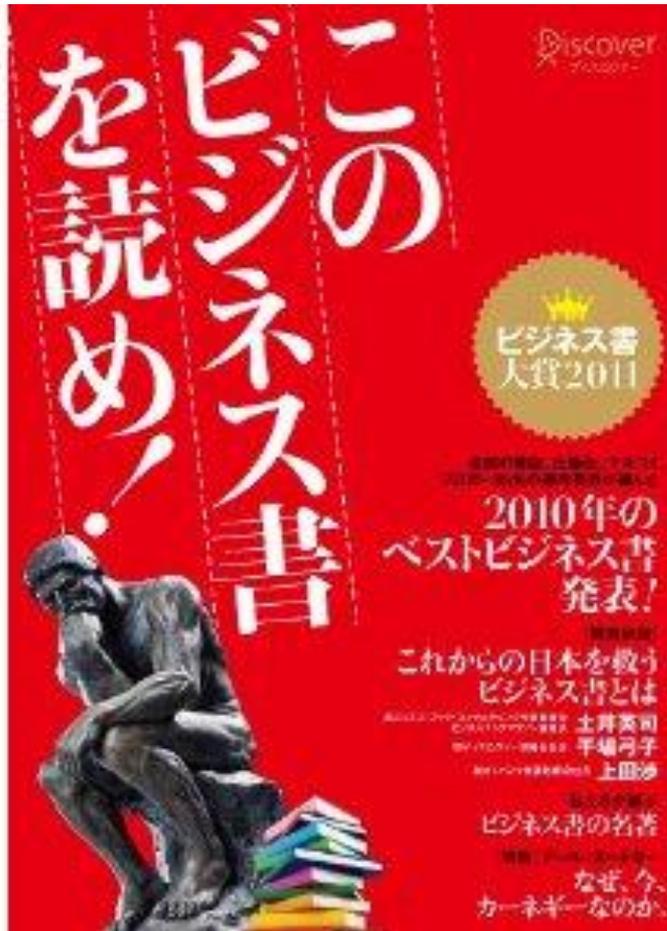


死者がゾンビになって人間を襲う謎の疫病が、中国奥地で発生して世界中へ感染を広げた。ゾンビに襲われた人間もまたゾンビになっていく無限増殖に、人類はほとんど滅亡直前まで追い込まれた。しかし、残された人類は不屈の精神と決死の作戦の展開により形成は逆転する。長い戦いの末にゾンビとの戦いに遂に勝利して、再び文明社会を構築し始めた。人々はその戦いをWorld War Zと呼んだ。

World War Z後「国連戦後委員会報告書」がまとめられた。編纂委員の一人は最終版を読んで、事実とデータのみが残され、戦いに関わった人々の心の葛藤や感動エピソードなどの人間的要因がすっかり削られていることを残念に思った。彼はもうひとつの人間的な歴史書を書くために、世界各国の兵士、政治家、実業家、主婦、オタクなど幅広い人たちに、World War Z当時の個人的な体験談を聞きとった。100人を超える個人の回顧談の記録で全体が構成されている。

# 第2部 今月のテーマ本 私的ビジネス書大賞2011

# ビジネス書大賞2011



「いま、私たちは何が求められているのか。これから私たちはどう生きていくのか。80名の目利きが選んだベストビジネス書、ついに発表!

時代を知り、次第を創る、いま読むべきベストビジネス書150冊。

2010年よりスタートしたビジネス書大賞。去年に引続き、今年も第2回目となる「ビジネス書大賞2011」を開催し、全国の書店、出版社、マスコミ、ブロガーを中心とした80名の選考委員が審査に参加しました。」

受賞作品一覧

<http://biztai.jp/prize.html>

# つながり 社会的ネットワークの驚くべき力



人脈の科学の本。六次の隔たり(友人を6人たどると世界がつながる)と三次の影響(友人の友人の友人にまで影響力は及ぶ)が、社会的ネットワークの普遍的な動作原理であることを再認識させられる本。ソーシャルネットワーク研究の一般書では、現時点での決定版といってよさそうな濃い内容。社会的ネットワークは、情報だけでなく笑いの感情、幸福感、孤独感、性行動、離婚、健康、自殺、肥満、喫煙、禁煙、投票、病原菌など驚くほど多くのものを伝播させる系であることが明かされる。

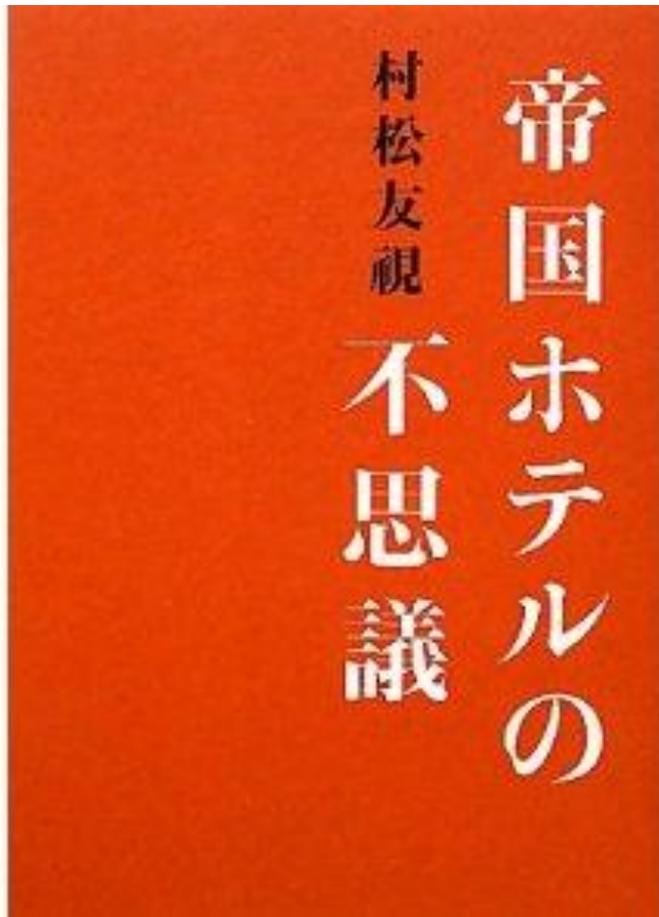
肥満も  
性感染症も  
笑いも  
すべて  
伝染する!!

ハイワード大学医学部・教  
養学部教授とカリフォルニア  
大学の政治学者が提示する、  
クラウド時代の社会的ネット  
ワークの姿!

デジタルであれアナログであ  
れ、人と人とのつながりの  
なかでしか人間は生きてい  
けないのだ……

講談社

# 帝国ホテルの不思議



直木賞作家の村松 友視が、帝国ホテルのマネージャーやスタッフら30人にインタビューして、「さすが帝国ホテル」と言われる洗練サービスの秘密を探った本。総支配人や施設部長、総料理長、ソムリエ、ベルマン、宴会チーフ、婚礼クラーク、靴磨き、ランドリー、フロント、ピアニスト、ブッチャー、氷彫刻担当、神主など組織のトップから末端まで全員が、高い意識で最高峰のホテルサービスを実現しようとしている様子がよくわかる。



# 第3部 デジタル読書向上委員会

## テーマ: ブログを2800日続けるコツ

# ブログを始めて約2800日

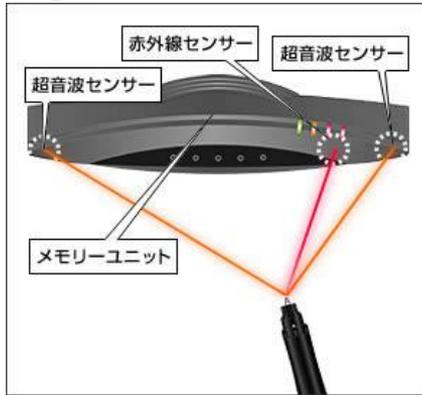
- 累計2000冊近い書評

# 読書時間の確保

- 通勤電車の往復時間と就寝前
  - 毎日発生するイベントに関連付けて
- **硬と軟の2, 3冊**を常時携帯する
  - 読みたいとき読みたい方を読む
- 1日1箱のタバコをやめると...
  - 月に6冊の本が読める
    - $1\text{本喫煙}3\text{分間} \times 20\text{本} \times 30\text{日} = 30\text{時間}$ を読書時間に
    - $1\text{日}300\text{円} \times 30\text{日} = 9000\text{円} = 1500\text{円} \times 6\text{冊分}$



# 書いた字や図がデジタルに エアペン



アイデアマラソン 24-7-キット

- ・1日に10個アイデアをノートに書く
  - ・それをデジタル化する
  - ・自分のアイデアのデータベースになる
- など

Xリット

① 紙に書ける スラスラ  
アイデアが出やすい  
デジタル/アナログ両方  
自由に描ける

② デジタル化できる  
何百パーセントも  
残すことができる  
議論を形成できる

③ 意識しない  
フタのノートとペン  
の感覚をつか  
くりました



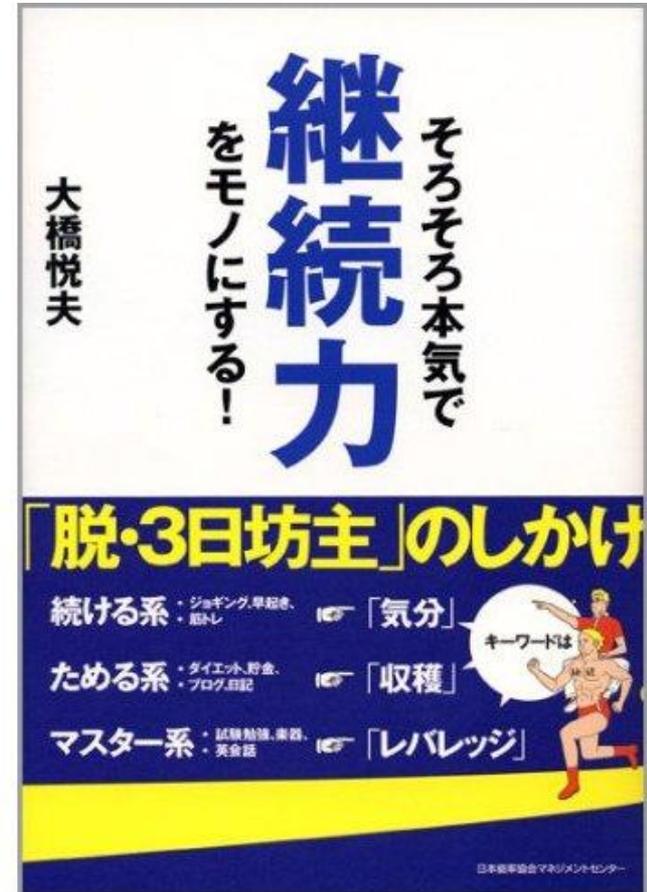
# 引用箇所の筆写に便利な ブックスタンド ELECOM EDH-004

- 本を読んだあとにパソコンに書き写すのにかなり便利。
- 他にもいろいろな製品
  - <http://www.ringolab.com/note/daiya/2008/10/elecom-edh004.html>



# そろそろ本気で継続力をモノにする！

- 1 続ける系 早起き、ジョギング、歯磨きなど
  - 2 ためる系 家計簿、ダイエット、ブログなど
  - 3 マスター系 英会話、資格試験、楽器
- 「やる気の問題」は「しくみの問題」
  - 「毎日必ずする行動に付属させる」  
「毎日必ず触れるものを利用する」  
「アクションをルーチンに落とし込む」
  - たとえば
    - 1 通勤電車に乗ったら読書をする
    - 2 寝る前にブログを書く
    - 3 駅近くで時間があったら本屋に行く
    - 4 付箋紙を常に携帯する



# 読んだらランキングにする 「殿堂」の構築

- 読んだ本が面白かったら、自分内でランクづけする。
- 今年度ベスト3、小説ベスト3、ノンフィクションベスト3、科学書ベスト3など、いろいろなベスト3を作成しておく。
- “殿堂入り”本について人に話す



# 2800日続いた秘訣

- スタンフォード眠気スケールと私
  - ノらないときは淡々と単純作業
  - ノっているときは創造作業
  - とにかくプロセスを前進させる
- 
- インプットしたらアウトプットする“体質”にする

# メール

- [Daiya@datasection.co.jp](mailto:Daiya@datasection.co.jp)
- ぜひひとこと感想を。
- 折り返しPDFで資料を送ります。
- 次回は6月23日(木)
- 19:00ーです。